2013.2.1/Vol.68

十和田市立 新渡戸記念館だより

Nitobe Memorial Museum Newsletter

第68号

デーリー東北新聞社・新渡戸稲造生誕150年記念特別企画「武士道」はいま
元国連事務次長・明石康氏と新渡戸常憲館長が特別対談

東京の国際文化会館で対談した明石氏と館長
（進行役：デーリー東北新聞社文化部長 川口桂子氏）

新渡戸稲造の生きかたを探る　旧盛岡藩出身で世界的名著『武士道』を著し、国際連盟事務次長として世界平和に奔走した新渡戸稲造［文久２年（1862）～昭和８年（1933）］の生誕150年を記念し、明石康元国連事務次長と新渡戸常憲館長が、東京都内で特別対談を行いました。対談はデーリー東北新聞社が企画し、実現しました。

十和田三本木原開拓の祖・新渡戸傳の孫である「国際人ニトベ」の生き方を探りながら、明石氏は日本が直面する最近の国際問題について「新渡戸稲造が異文化の相互理解に尽くしたように、閉鎖的、内向きにならずに再び日本を外に開いていくことが大切だ」と訴えました。活力を失う現代日本に新渡戸館長は「日本人の誇りを取り戻す上で『武士道』の精神を再び学び、原点に返ることが必要でないか」と強調されました。明石氏は、新渡戸稲造をはじめ東北から多くの国際人が出ていることを挙げ、紛争問題などの難局に「東北人の持っている粘り強さや忍耐心が役に立つ」との持論も展開し、新渡戸館長は東日本大震災からの復興に「武士道」精神を生かす考えを示し、「難しい問題と向き合う軸となる精神を磨いていかなければならない」と話されました。
（平成24年12月６日付 デーリー東北紙面より）

新渡戸稲造生誕150年記念　新渡戸塾連携展

THE INAZO NITOBE ザ・イナゾウ ニトベ展

会期：平成24年10月16日（火）～平成25年1月31日（木）　※ 好評に付き延長
場所：十和田市立新渡戸記念館
【新渡戸記念館 主催 ／ Kyosokyodo（共創郷土）・デーリー東北新聞社 協力】

ー新渡戸稲造を若い世代に身近に感じてもらうためにー

等身大の稲造パネルと実物の大礼服

稲造少年の家族をKyosokyodoメンバー福沢健悦氏が温かみあるイラストに描いてくださいました

稲造生誕150年記念の企画展は、楽しみながら新渡戸稲造の人柄に触れてもらえる展示を心がけました。博物館実習生の北里大学獣医学部４年　安田暁彦さんにアイディアを出してもらい、稲造の等身大パネルを作りました。また、食べ物の好みやファッション、意外なエピソードなどを「稲造を大解剖！」と題して年齢ごとにまとめ、稲造自身が語りかける形で紹介しました。丸メガネに帽子、ステッキという稲造のファッションを体験できる「稲造になってみよう！」コーナーも好評で、老若男女様々な稲造が展示室に出現しました。悩み苦しんだ青年時代、病のために思うに任せなかった頃など、偉大な業績の裏に秘められたエピソードを中心に抽出しました。日本の激動期に信念を持って行動した稲造の姿を感じてもらい、閉塞感に満ちた現代においても、若者たちに勇気を持って踏み出してほしいと願っています。

企画展トピックス

東京新渡戸家でお手伝いをした丹内きよさんにインタビュー

三本木（現十和田市）出身の丹内きよさん（旧姓・杉本/91歳）は、姉の杉本きみさん（故人）が三本木新渡戸家の新渡戸稲子さん（傳翁の曾孫・故人）と三本木高等女学校の同級生であった縁で東京新渡戸家に昭和12年（1937）から２年間務めました。既に稲造博士は４年前カナダで客死しており、当時は万里夫人、養女ことさん、その息子の誠さん、娘の武子さんが住んでいたとのこと。新渡戸家では西洋料理を覚え、三本木でも家族に食べさせたこと、万里夫人が「キヨさん」と呼んでくれたことなど語られました。賛美歌の本（聖書か）を手にする万里夫人の姿が印象にあるとのお話しから、稲造亡き後の夫人の祈りが垣間見えるようでした。

新渡戸万里夫人（昭和２～３年頃）

丹内さん（右）の義理の姪・杉本佳榮子さん（中央）のご紹介で、長女の佐藤憲子さん（左）とご一緒にインタビューしました

太素塚元朝参り　平成24年12月31日（月）～25年1月1日（火）

写真撮影
一本木沢ビオトープ協議会
副会長　佐藤幸一氏

大晦日の太素塚

わ組有志による「十和田祭唄」「十和田囃子」の奉納

太素塚入口に並ぶ稲生塾生の行灯

月光に照らされる新渡戸十次郎像

寺子屋稲生塾生の行灯など130個で境内をライトアップし、参拝客はお神酒と甘酒（鳩正宗 提供）を手に新年を迎えました。

EVENT

人づくり・地域づくり塾
寺子屋稲生塾

平成24年度 新渡戸塾こども講座

新渡戸記念館・市教育委員会 共催

【協力：新渡戸記念館ボランティア Kyosokyodo(共創郷土)】

プログラムその5 ★世界と友だちPART②－料理・音楽などの文化体験－

■日時：11月10日(土) 9:00～12:00　■場所：ブラスリーマスダ
■講師：チェコ共和国大使館一等書記官　ペトル・ホリー氏

チェコ文化について話すホリー氏

楽しい会食会

駐日チェコ共和国大使館一等書記官・チェコセンター所長ペトル・ホリー氏を講師に迎え、市内のフランス料理店・ブラスリーマスダを会場にチェコの歴史や文化についてお話を伺いました。増田保稔シェフの協力で、牛肉のシチュー「グラーシュ」、酢キャベツのスープ「ゼルニャチカ」、フルーツケーキ「ブブラニナ」を再現し、“モルダウ”などチェコを代表する音楽を聴きながら試食しました。米田省三教育長にも参加いただき、塾生と保護者およそ40名が楽しく会食し、最後にホリー氏から、子どもたちへチェコのお菓子をお土産にいただきました。

プログラムその6 ★「書の心は武士道の心－書道&茶道体験－」<閉講式>

■日時：12月1日（土）9:00～12:00　■場所：十和田市民文化センター
■講師：書道 大山綾園氏・茶道 稲本宗美氏

書道体験

塾生と保護者およそ30名が参加し、書道体験では大山綾園氏の指導で、塾生一人ひとりが武士道の言葉などから一文字を選んで色紙に書きました。茶道体験では、裏千家教授・稲本宗美氏からお茶についてお話しを伺った後、茶室でお茶の作法を学びました。閉講式では子どもたちが色紙に込めた思いを発表し、小山田久十和田市長（代理　中居雅俊教育部長）、新渡戸館長から修了証と記念品が授与されました。塾生を代表して皆勤賞の川崎拓馬くん、松田祥吾くん、沼田愛さん、米田マイケル春仁くんが活動の感想を話し、「仲間といろいろなプログラムに挑戦できて楽しかった」「中学生になってもぜひ参加したい」と話していました。

閉講式での感想の発表

茶道体験

新渡戸塾・稲生塾特別講座「指画」

① 12月22日(土)9:30～11:30　こども講座（場所：十和田市民文化センター）
［共催：市教育委員会・新渡戸記念館／協力：(社福)福祉の里］
② 12月23日(日)13:30～15:30　一般講座（場所：ケアハウス・ボナール十和田）
［共催：(社福)福祉の里・新渡戸記念館／協力：市教育委員会］

12月22日こども講座

12月23日一般講座

未来遺産十和田・稲造生誕150年記念として、日本でただ一人、中国伝統技法・指画の継承者である濱田珠鳳先生の直接指導で指画を体験しました。こども講座では、子どもと大人合わせて約50名が、翌日の一般講座では、定員を超える約70名の方が参加し、それぞれ個性的な作品を仕上げました。※作品は「稲生塾成果展」で展示します。

平成24年度 新渡戸塾モデルスクール事業

行灯づくりの由来説明

行灯制作の様子

★『行灯ワークショップ』　（講師：工作屋台村 吉田紀美男 村長）
およそ150年まえの稲生川上水成功後、新町稲生町で最初に行われた祭り“大行灯祭り”にちなむ「行灯ワークショップ」を次の日程で行いました。(稲生塾・出前講座として実施)
【開催日程】 6月20日(水)高清水小学校　7月17日(火)十和田湖小学校　11月21日(水)法奥小学校　12月5日(水)下切田小学校

★『脱穀体験&しめ縄づくり』（講師：小笠原正氏、戸来陽子氏、沢口騏三夫氏、竹ケ原公氏）
十和田市立南小学校5学年で、せんばこき、足踏み脱穀機、唐箕を使った「脱穀体験」[10月19日(金)]と、脱穀後の稲わらで「しめ縄づくり」[12月7日(金)]を行いました。同校では4学年を対象に学芸員による出前講座[11月13日(火)]と稲生川工事道具体験も行い、三本木原開拓をはじめ米作りに苦労してきた当地の歴史を総合的に学びました。

脱穀体験

しめ縄づくり

寺子屋稲生塾 活動の成果展 今後の巡回予定

★平成25年2月15日(金)～3月31日(日)
［場所：新渡戸記念館］
まちの宝壁新聞・ビデオ・書道・「指画」などの作品を展示

★平成25年2月24日(日)　※十和田湖公民館まつり
［場所：十和田湖公民館］
十和田湖小学校、法奥小学校、下切田小学校での出前講座で制作の行灯などを展示

展示会場として協力いただいた 青森銀行十和田支店　下山明彦支店長のメッセージ

9月5日(水)～11月30日(金)
青森銀行十和田支店ロビー展開催

寺子屋稲生塾の皆さんへ

皆さんは、寺子屋稲生塾に参加し、国際人新渡戸稲造の武士道精神について学び、「武士道」で考えることを体験しました。また、大行灯やキャンドルづくりに挑戦し、「ドンきみ」や「手焼きせんべい」などのむかしのおやつ作りや、「竹馬」「ずぐりまわし」などのむかしの遊びも体験しました。そして、とわだ時空調査隊として、実際に歩き、ふれあい、まちの方々からいろいろなお話を聞き、取材し、ビデオ撮影やインタビューをして、まちの宝をみつけました。みんなで考え、協力して一生懸命に壁新聞を作りあげた経験は、将来きっと皆さんの大きな宝になるはずです。この活動で体験した感動を心にきざみ、この経験を生かして、自分たちが暮らす十和田市のまちの宝をいろいろな視点から探してみましょう。きっとたくさんの宝が見つかるはずです。最後にもうひとつ宝を見つけてください。モノではなく、磨けば磨くほど輝く自分という人材の宝を。

平成24年度 新渡戸塾

新渡戸記念館・市教育委員会 共催
Kyosokyodo（共創郷土）協力

新渡戸稲造生誕150年記念　講演会
第2講座　今学びたい新渡戸稲造のおしえ
「光は東北から－日本復興のさきがけ－」

講演中の佐藤先生

講師：大阪府立大学名誉教授　佐藤 全弘 先生
■日時：10月28日(日)18:00～19:30　■場所：十和田市民文化センター

佐藤先生は、過去の災害との数値的比較によって、東日本大震災と引き続く原発災害の深刻さを論証すると共に、東北地方がこれまで見舞われた歴史的苦難ー自然災害や飢饉、政治的冷遇、戦時中は有力な兵力として、高度成長期には労働力源としての人口流出など－をひも解き、稲造が東北に故郷として寄せた思いや、逆境の多い東北人には不撓不屈の精神が養われると評していたことなどを語りました。特に稲造が説いた日常の三徳「正直」「親切」「思いやり」こそが復興の鍵であり、今回の未曾有の災害にあって発揮された東北人の人間的美しさから考えても、日本全体の復興の先駆けとして、命を守る新しい文化の創造は東北の地からこそ発信されるとの確信をお話しになりました。

【講演会後のアンケートから】
- 稲造の東北観には感動です。正直、親切、思いやりを大切に心がけたい。
- 歴史の概観から時事問題の真髄を熱弁され、もっと聴きたかった。稲造の思想をよく検証し、現代の偽り多い世の中をいかに正しく乗り越えていくか、一人ひとりが自覚をもって考えなければと深く思った。
- 佐藤先生の東北へのエールを熱く感じた。東北が日本復興のさきがけとなるよう心と力を合わせてがんばりたい。

★ 絆 ギャラリートーク「稲生町の戦前・戦後」 講師：平野郁太郎氏（昭和7年十和田市稲生町生まれ）

お話しする平野氏

11月24日（土）14:00～15:00 三本木原開拓により誕生した十和田市の中心市街地・稲生町の歴史について、斗南藩士移住や三本木国営開墾事業、軍馬補充部開設、大火などのトピックスでたどりました。ご自身の思い出を交えて話され、ライフワークの稲生町古写真を元にした水彩画もご紹介いただきました。

★ 日本文化体験「しめ縄づくり」 講師：小笠原正氏、戸来陽子氏

「縄をなうのが難しかったけれど楽しかった」「来年も参加してもっと上手になりたい」との声が聞かれました

12月15日（土）14:00～16:00長年農家の手仕事を伝えてきた小笠原正さんにしめ縄を、戸来陽子さんからは松ぼっくりやミニ扇、リボンなどでアレンジしたクリスマスとお正月用のリースを指導いただきました。今年の干支「巳」の形にも挑戦し、参加者は縄をなう作業に苦労しながらも、伝統文化を楽しみました。

太素の水プロジェクト活動報告

「太素の水」保全と活用連合協議会 主催
太素の水市民フォーラム
『どう活かす未来遺産！
“持続可能な地域づくり”に向けて－』

市民フォーラムの様子

日時：平成24年11月17日（土）13:30～16:30
場所：十和田市東公民館ホール

館長が会長を務める「太素の水」保全と活用連合協議会は、「太素の水市民フォーラム」を開催しました。およそ80名の市民が参加し、稲生川の現状の課題と解決策について活発に意見交換しました。

【基調講演】
『子供が自慢できる故郷（ふるさと）づくり』

講師の小林先生

講師：北里大学名誉教授　小林 裕志 先生

初代の稲生川市民フォーラム実行委員長であった小林先生は、三本木原開拓史を概観し、開祖・新渡戸傳だけでなく代々この地域には“偉人のアイデンティティ”が受け継がれてきたことを指摘されました。これは全ての偉人に共通するもので、敬愛できる先人と、自然との共生を実践できる恵まれた環境があることは子どもたちの財産で、それを軸に学校教育カリキュラムを再編し、郷土愛を培うことが、持続可能な内発的地域発展の土台となるとお話しになりました。

【各団体からの事例発表】太素の水プロジェクトの3つの実行団体が、担い手の高齢化、予算不足といった課題、次世代の育成や仲間作りの展望などを発表しました。
①稲生川せせらぎ活動委員会（事務局 水土里ネット稲生川 阿部俊 主任）
②一本木沢ビオトープ協議会（杉浦 俊弘 理事）
③Kyosokyodo 共創郷土（新渡戸 富恵 会長）

【総合討論】討論で出された主な意見は次のとおりです。

■会場の参加者から
- 上杉流兵法の人づくりの思想が三本木原開拓に活かされているという点を見直すべきではないか
- 稲生川にホタルが生息できるように通年通水はできないか
- 稲生川沿いの木が大幅に伐採されたが景観としてどうか
- 伐採後に桜を植樹して稲生川沿いの桜並木を増やしてはどうか

■パネラー（各団体発表者）から
地域全体で取り組む多様な活動が評価されプロジェクト未来遺産に選定されていることから、一者が負担を背負い込むのではなく、団体間の連携を深め、今回のように知恵を持ち寄り問題解決に継続して取り組むことが大切。合同イベントでの交流などの方法があげられる。

■講師（小林名誉教授）から
稲生川沿いの伐採は、水土里ネットが稲生川の管理のためしっかり働いている結果だが、事前説明会を開くべきと思う。20年前の市民フォーラム提言書にあげているように、事業実施には企画段階から市民を巻き込み作りあげていくことが大切である。

■コーディネーター（北里大学獣医学部 杉浦俊弘教授）から
稲生川を核に地域を良くしていこうという“共創郷土”の志の輪を市全体に広げるよう、今後もこうした意見交換の場を持ち、着実に継続することが大切である。

Kyosokyodo（共創郷土）主催
『未来遺産十和田 市民共創のウォーキングマップ事業』

平成24年9月～11月に右記の研修会を実施するとともに、現地検討会を重ねています。稲生川ウォーキングマップは本年度中に完成の予定です。

1 9月29日（土） 勉強会①

「稲生川の郷土学習について」
講師：水土里ネット稲生川 阿部俊主任

2 10月6日（土） モニターツアー

［水土里ネット稲生川・十和田ウォーキングクラブ・MTC21ウォークの会 協力］

3 10月13日（土） 勉強会②

「稲生川周辺の文化財」
講師：市教育委員会 大久保学 学芸員

4 11月4日（日） 勉強会③

「運動でメタボをフットばせ！～元気に長生きするために～」
講師：市立中央病院 丹野弘晃 院長

EVENT

★ 新渡戸塾オリジナルツアー「穴堰ツアー」

11月14日（水）総勢20名で太素塚を9:00に出発し、水土里ネット稲生川阿部俊主任の解説を聞きながらバスで移動、取水口の法量農村公園で下車し、稲生川の構造や機能について説明を受けました。その後胴長などの装備で、鞍出山穴堰全長およそ1700メートルを歩いて穴堰内部に残る昔の掘削痕も見学し、工事の苦労をしのびました。穴堰見学後には十和田市出身の立正大学高村弘毅名誉教授から、長年研究されてきた中東の水施設のカナート、マンボと稲生川の穴堰との比較考察についてお話しいただきました。

中東の水施設との比較を語る
高村弘毅先生

穴堰と参加者

mini NEWS

資料の寄贈

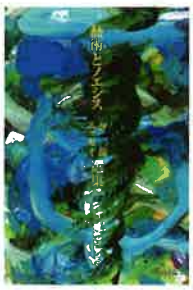
山端城正　様（十和田市）より、子どもたちの脱穀体験用に足踏み脱穀機1点を寄贈いただきました。

太素塚清掃奉仕

・10月７日（日）11月４日（日）　さわやかクラブ　様
・11月25日（日）稲生ライオンズクラブ　様　ありがとうございました

関連情報

▶新渡戸常憲館長の評論エッセイ選集出版



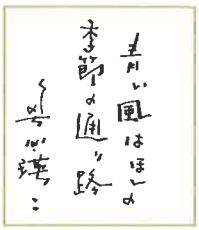
12月25日（火）㈱銀の鈴社から館長の著書『藝術とノエシス・評論エッセイ選集』が発行となりました。稲造生誕150年、館長就任記念の出版です。音楽学博士・音楽評論家として執筆した音楽芸術評のほか、自然や自らの精神風土をテーマにしたエッセイ、地域活動における著述などを収録しています。表紙はスペイン在住の情熱の画家、堀越千秋氏が友情の印として描いています。

※お近くの書店やインターネットのほか、当館でもお求めいただけます。

▶映画監督で俳優の奥田瑛二氏来館

11月9日（金）館長とともに六本木男声合唱団のメンバーである奥田瑛二氏が平成24年度十和田市民大学講座（主催：十和田市教育委員会）最終第８講座「対談・映画と我が人生」のため来十し、講演に先だち来館されました。市民大学では館長と対談され、下積み時代の苦労から安藤和津夫人との出会いやご家族の心温まるエピソード、監督で俳優という奥田氏ならではの映画哲学をお話しになりました。会場の市民からは「対談を聞いてますますファンになった」「テレビと違う映画の魅力がよくわかった」といった声が聞かれました。

奥田瑛二氏と


奥田氏の色紙

▶ジュニア向け「新渡戸稲造ものがたり」出版

9月1日（土）稲造生誕150年記念として『新渡戸稲造ものがたり』［㈱銀の鈴社／柴崎由紀　著］が発行となりました。当館はじめ各方面の資料写真を多く収録し、稲造の生涯をわかりやすく紹介しています。

▶9月2日（日）十和田市出身の桜田まことさんが十和田の魅力綴るDVD・CD２枚組みアルバム「BEST SEASONS FOREVER ～ 4 SEASONS ～ Special Edition」を発表しました。太素塚と新渡戸記念館を魅力の一つとして紹介しています。

▶ピアニスト・草野政眞先生ご夫妻来館

12月14日（金）長年にわたっての館長の師匠であるピアニスト草野政眞先生ご夫妻が、館長が会長を務める十和田市中央病院芸術ボランティアの会「アルタ・ノヴァ」ならびに同病院主催コンサートのため来十し、コンサートに先だち来館されました。コンサートでは、草野先生ならではの完璧なテクニックと豊かな音楽性を余すところ無く披露され、コンサートを聴いた市民からは「こんなに心動かされる演奏は初めて」「普通では考えられないとても贅沢な時間をすごさせていただいた」との声が寄せられました。

草野政眞先生ご夫妻と

▶平成25年１月、共同通信社並びに加盟46紙が主催地域の活性化を目指す取り組みを支援する「第３回　地域再生大賞」の優秀賞（39件）に当館ボランティア団体 Kyosokyodo（共創郷土）が選ばれました。
※大賞ホームページ www.47news.jp/localnews/chiikisaisei/taisho/

活動報告

▶館長講演会「未来を切り拓く力」

未来を創造するために大切な先人の教えについて、館長が下記日程で講演を行いました。

10月17日（水）三本木高校卒業生講演会（三本木高等学校）／12月12日（水）のへじ生涯学習大学（野辺地町中央公民館）／平成25年１月20日（日）新潟ユネスコ協会「2013年新年の集い」（ホテルオークラ新潟）

▶博物館関係会議出席

10月24日（水）～26日（金）第60回全国博物館大会（開催地：秋田県秋田市／テーマ：博物館の再生）に館長が出席。

▶デーリー東北新聞社・稲造生誕150年記念リレー連載『新渡戸稲造生誕150年・「武士道」は今』に全面協力

5月～12月にデーリー東北が企画した稲造生誕150年記念リレー連載『稲造生誕150年「武士道」は今』全21回に執筆いただく先生方のご紹介や写真資料提供などで当館が協力しました。また、当館の稲造生誕150年記念企画展「THE INAZO NITOBE ―ザ・イナゾウ　ニトベ―　展」には同社にご協力いただき、10月31日（水）の紙面で大きく紹介いただきました。

＜連載執筆者＞
大阪市立大学名誉教授　佐藤全弘先生（１～４回）、静岡理工科大学教授　志村史夫先生（５～９回）、こどもコミュニケーションデザイナー　高橋和の助氏（10～11回）、職業能力開発総合大学校名誉教授　松下菊人先生（12～13回）、奈良女子大学名誉教授　戸祭由美夫先生（14～15回）、国際基督教大学名誉教授　石川光男先生（16～17回）、アフガニスタン文化研究所所長　前田耕作先生（18～19回）当館学芸員（20回）当館館長（21回完）

編集後記　昨年４月に館長職を預かる事になった。その出航の折、稲造生誕150年を迎え、我々の出来得る範囲で様々なイヴェントも企画し無事に終えられた。この事は今後活動する上で大きな意味を持つものと思う。私事ではあるが「藝術とノエシス」もクリスマスに刊行になり、与えられた個々の物事や心とした行動さえも、その点が線でつながると実に意義深くもなるものだと思った。巡ってきた好機を無駄にしないよう今こそ飛躍せねばならない。（館長 新渡戸常憲）

■ご利用案内
・開館時間：午前9:00～午後4:00
・休 館 日：毎週月曜日（祝祭日は開館）年末年始（12/29～1/3）
・観 覧 料：大学生・一般210円（団体178円）
小・中・高校生52円（団体42円）※ 団体は20名以上
十和田市民は観覧料が無料となっています

世界に通ずる私たちのローカル記念館を目指して
十和田市立 新渡戸記念館
Nitobe Memorial Museum
URL　www.towada.or.jp/nitobe/

発行日　2013年２月１日
編集・発行　太素顕彰会・十和田市立新渡戸記念館
〒034-0031　青森県十和田市東三番町24-1
Tel & Fax：0176-23-4430
Email：nitobemm@hi-net.ne.jp
印刷　株式会社 岩間印刷